

新規調査研究計画書（全体計画）

調査研究 課 題	重症急性呼吸器感染症起因微生物の網羅的検出法に関する検討
計画期間	平成24年度～26年度 3年間
背 景 必 要 性	<p>2009-2010年シーズンにおいて、県内のインフルエンザウイルスが原因と疑われた重症急性呼吸器感染症のうち、約20%からはインフルエンザウイルスは検出されなかった。インフルエンザウイルス以外にも重症急性呼吸器感染症を引き起こすウイルスや細菌が数多く存在することを示唆するものであり、明らかにする必要がある。</p> <p>また、市中では年間をとおしてさまざまな急性呼吸器感染症が発生している。2000年以降、いくつかの新たなウイルスが発見され、その原因の多くが分かってきたことから、地方衛生研究所でも取り組むようになってきた。</p> <p>これまでの検出法では原因微生物の特定までに数日を要していたが、最近、同時多項目の遺伝子検出が可能な網羅的な検査キットが市販された。</p>
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1 迅速に結果が得られる網羅的な遺伝子検出法の有用性について検討する。 2 県内における重症急性呼吸器感染症の起因微生物を明らかにする。
計画内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 対象微生物は、重症呼吸器感染症の起因微生物として頻度の高い、インフルエンザウイルスを除いた7種（15遺伝子型）のウイルスと5種の細菌とする。 2 網羅的な遺伝子検出法とPCR単独法等を比較検討する。 3 臨床検体中の微生物を同定する。
研究目標 (達成しよう とする成果及 びその活用方 法)	<ol style="list-style-type: none"> 1 インフルエンザ様疾患が迅速に正しく診断され、適切に治療されることによって、インフルエンザ対策やその他の呼吸器感染症対策に寄与する。 2 県内の医療機関に成果を公表し、医療に資する。 3 専門病院に対し、検出法の普及を図る。 4 呼吸器感染症のアウトブレイク（集団発生）の原因を迅速に解明し、早期対策に資する。
実施上の課 題及び対応	<ol style="list-style-type: none"> 1 PCR単独法等との比較検討が必要なため、急性呼吸器感染症の研究に取り組んでいる大学、他の地方衛生研究所、国立感染症研究所等と共同研究体制を構築する。 2 臨床サンプル及び臨床データを必要とするため、県内の医療機関と連携体制を構築する。 3 茨城県疫学研究合同倫理審査委員会の承認を得て実施する。
備考	